

3 日本史A

指導と評価の年間計画例 (第2学年用)

目標	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
【学習指導要領】	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に關心と課題意識をもつことができるよう、各単元の冒頭に家庭学習等による調査を実施する。
到達目標に向けての具体的な取組	近現代史の学習から過去の歴史と現代との結びつきを理解し、課題を見つけ、それについて考察ができるように、各授業ごとに思考・判断の力を問うテーマを盛り込み、また、第6章においては、個別の課題追究学習を実施しレポートを提出させる。
【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	諸資料の分析を通して事象を追究する方法を身に付けることができるよう、表・資料・写真等を考察して、自分の考えを表現できるような場面を多く設定する。 近現代史の概要について、特に現代の諸課題と結びつけて基本的な知識を身に付け理解できるように、適宜テーマを設定する。

月	単元名	使用教科書項目(出版日本史A)	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4月		日本史Aの授業について(はじめに)	1	・日本史A学習の意味	アンケート実施
4月	歴史と生活	主題1 近世以降の岐阜県の歴史と現代	2	・江戸時代的美濃飛騨と現代の岐阜県とのつながりを考察する ・主題学習を通じて歴史を学ぶ意味を具体的に理解する ・江戸時代の飛騨・美濃の状況について考察する	プリント確認 行動観察
		序章 1 維新以前の日本	1	・江戸時代の特色(武士道・身分制度など)と近代の萌芽を理解する	行動観察 プリント確認 質問紙
5月	近代の前提	2 近代の萌芽	1		
		3 対外関係の変化	1	・鎖国体制の意味を理解する	自己評価を実施
		第1章 1 東アジア国際環境の変化と開国	1	・近現代史における日米関係について関心をもつ	行動観察
		2 政治秩序の崩壊	1	・列強による植民地化の危機と明治維新の要因について理解する	プリント確認 質問紙
6月	開国と維新	3 明治維新と革新政策	2	・江戸幕府の滅亡の原因を考察し理解する	質問紙
		4 対外関係の变革と内乱の終結	1	・明治政府が目指した支配体制について理解する	小テスト
		第2章 1 立憲政治をめざして	1	・自由民権運動の本質とその結末を理解し、大日本帝国の政治的特色を理解する	行動観察
		2 憲法の制定と議会の開設	2		プリント確認
		3 東アジアの国際環境と条約改正問題	1	・日本の大陸進出の意図及びこの時代の東アジア情勢を広い視野から理解し、二つの戦争と植民地支配の意味を理解する	質問紙
		4 清国との戦い	1	・韓国併合とその後の植民地支配から在日朝鮮人問題など現代日本の課題について考察する	グループ別学習
		5 藩閥・政党の対立と協力	1	・2ヶ月間の学習の状況について自己評価する	自己評価表の記入
7月	産業化の推進と国民生活の変化	6 ロシアとの戦い	2	・授業評価を実施	授業評価表の記入
		前期中間考査	1	・日本の大化=脱亜入欧の思想を理解する	行動観察
		テスト返却	1		プリント確認
		授業評価	1		質問紙
		7 日露戦後の国際関係と日本	1	・日本の産業の発達の様相と日本資本主義の実情について理解し、明治社会の問題点について考察する	質問紙
		第3章 1 産業革命の進展	1	・明治文化の形成を通じ、日本人の文化の受け入れ方について考察する	小テスト
		2 資本主義の確立とその特色	1		行動観察 プリント確認
9月	第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー	3 社会問題の発生	1		質問紙
		4 国民文化の形成	1		
		5 国民生活の変化	1		
		1 第一次世界大戦と日本の外交	1	・「大正デモクラシー」という用語から、大正・昭和期の時代へのイメージをもつ	行動観察 プリント確認
		2 デモクラシーの高まりと政党	2		質問紙
		3 国際協調と軍縮の進展	1	・国際協調・軍縮の時代の外交関係とそれを可能とした国際情勢を理解する	
10月	第二次世界大戦と日本	4 政党政治の時代	2	・政党政治の本質と限界について理解し、民主政治の理想について考察する	
		前期期末考査	1		
		テスト返却	1		
		プリント確認	1		
		5 大戦中から戦後の経済と社会	2	・デパート・洋装・洋食など今日の大衆文化の原点となった大正昭和初期の文化を理解する	
		6 都市化と大衆文化	1		
11月	歴史と生活	第5章 1 昭和恐慌	1	・各地の戦争の爪痕について関心をもち、戦争を経験した世代に対する理解を深め、平和に対する思いを強くする	行動観察 プリント確認 質問紙
		2 協調外交のゆきづまり	1		
		3 満州事変から国際的孤立へ	2	・昭和恐慌の原因を考察する	
		4 軍部の政治的台頭	2	・満州事変から国際的孤立へ向かう日本の進路についてその原因について、多面的に考察する	
		5 中国との戦い	1	・太平洋戦争の実情を理解し、日本近代史の中での重みや現代とのつながりについて考察する	
		6 第二次世界大戦と世界新秩序	1		
		7 太平洋戦争	2		
		8 日本の敗北	1		小テスト
12月	占領下の日本	主題2 日本人の信仰と正月	2	・正月の行事の中にある日本の信仰について理解する ・正月の行事・風習などの中から課題追究学習を実施する	行動観察 プリント確認 質問紙
		後期中間考査	1		
		テスト返却	1		
1月	日本の自立と経済成長	現代の日本アンケート	1	・現代日本の諸課題についてアンケートにより関心を高める	アンケート
		第6章 1 占領政策の展開	1	・アメリカ軍の占領が戦後の歴史においてどのような意味をもつかについて、関心を高め考察する	行動観察 プリント確認 質問紙
		2 戦後民主主義の定着	1	・民主化と占領政策の転換及び戦後の国際情勢について理解する	
		3 政治・経済の再建	1	・現代の政治課題のいくつかと戦後政治との関連を考察する	
2月	現代世界と日本	4 独立の回復	1	・戦後時代を長く規定した55年体制について理解する	行動観察 プリント確認
		第7章 1 55年体制の成立	1	・高度成長の光と影について理解し、経済大国の実相を考察する	
		2 安保体制下の日本	1	・石油危機以後の日本の状況と国際経済における日本の位置について理解する	小テスト
		3 高度経済成長の光と影	2		
3月	後期中間考査	4 経済大国	1		
		1 冷戦の終り	2	・現代の諸課題についてアンケートを結果をもとに関心を高め、課題追究の態度をもつ	行動観察
		2 国内政治の再編成	1	・各自のもつ課題について調査研究を行う	課題調査 課題発表 作品提出
3月	後期中間考査	3 アジア・太平洋と日本	1	・冷戦後の世界の変化、55年体制の崩壊、バブルとその後の日本経済について理解し、現代日本の課題について考察する	
		課題発表	2	・課題について発表を行う	
		日本史Aの授業を終えて	1	・1年間の学習により何が学べたかについて総括する ・日本史A学習の意味は何であったかについて総括する	年間の反省 授業評価表の記入
		後期末考査	1		
		合計時間数	70		

日本史 A

評価規準を明確にした単元の指導計画例

1 科目の目標 「学習指導要領」の科目の目標と同一

近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

2 科目全体の評価の観点及びその趣旨

「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(高等学校)」に記載されたもの

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

3 単元 「近代日本の形成と19世紀の世界 (2) 開国と維新」の目標と評価規準

(ア) 大単元「近代日本の形成と19世紀の世界」の目標

開国以後、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程を、国際環境と関連付けて理解させる。

(イ) 小単元「開国と維新」の目標(学習指導要領の内容を単元の構成に合わせて一部修正)

文明の開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸制度の改革に伴う社会・文化の変化に着目して、開国から江戸幕府の崩壊・新政府の樹立・諸改革の実施・内乱の終結までの我が国の近代国家形成の動きについて理解させる。

(ウ) 大単元および小単元ごとの評価規準と学習における具体的評価規準

	大単元「近代日本の形成と19世紀の世界」の評価規準	小単元「開国と維新」の評価規準	学習活動における具体的評価規準
関心・意欲・態度	開国以後、明治維新を経て近代日本が形成された過程に対する関心と課題意識を高め、多様な学習方法を通して意欲的に追究している。	開国、明治維新から内乱の終結までの近代国家形成の動きに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	ペリー来航以後の今日に至る対米関係の重要性に関心をもち、歴史の流れを大きな視点から把握しようとしている。幕府と討幕派の政治的争いの中から、現在の社会の人間集団の争いの局面につながる事象を見いだすことができる。
思考・判断	開国以後、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	開国、明治維新から内乱の終結までの近代国家形成の動きから課題を見だし、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府の諸制度の改革に伴う社会・文化の変化と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	黒船に米を運ぶ相撲取りの絵から、ペリーの砲艦外交の現実と日本の植民地化の危機を考察することができる。江戸幕府が倒れていく理由について多面的に考察することができる。薩長が尊王攘夷路線から倒幕路線へと転換した事の意義を考察することができる。徴兵制、秩禄処分、学制、西南戦争などの政策や事件の本質を理解し、明治新政府とは何だったかを考察することができる。地租改正の意味を理解し、近代社会における土地制度の持つ意味を考察することができる。
資料活用の技能・表現	開国以後、明治維新を経て近代日本が形成された過程に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することや、博物館や文化遺産などを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	開国、明治維新から内乱の終結までの近代国家形成の動きに関する文献、新聞、絵画、写真、統計・グラフ、地図などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	アヘン戦争における清朝のジャンク船の敗北の様子から、西洋の軍事的有意を読み取り表現することができる。明治維新の諸相を示す資料から、庶民にとって維新によって生活がどう変化したかを読み取り表現することができる。

日本史 A

知識・理解	開国以後、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程についての基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	開国、明治維新から内乱の終結までの近代国家形成の動きについての基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	公武合体派、尊王攘夷派などによって引き起こされる幕末の複雑な政治情勢を理解することができる。 幕藩体制と維新以後の中央集権国家体制の相違を具体的事象のなかで理解することができる。 明治初期の外交を理解し、その二面性について理解している。
-------	--	---	--

4 小単元「開国と維新」の指導と評価の計画（各時間ごとの指導と評価の計画）

各授業時間ごとの主な内容

（特に記録を残す評価）

1 東アジア国際環境の変化と開国			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
第1時間目	アヘン戦争とアメリカの登場 和親条約・通商条約の締結と開国の影響	2枚の星条旗の意味から近代史における日米関係に関心をもつ。 【関】 アヘン戦争の影響とアメリカの発展「炎上する清国のジャンク」についての解説文を書く。 【技】 黒船に兵糧米を運ぶ力士の図から、ペリーの砲艦外交と日本植民地化の危機を考察する。 【思】 幕府が打倒されていく理由を推察する。 【思】	意見発表 絵を見ながら意見を書かせる。質問紙記入。 意見発表 意見発表
2 政治秩序の崩壊			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
第2時間目	井伊直弼の政治の挫折と幕府権力の動揺 公武合体と尊王攘夷運動の展開 討幕運動と戊辰戦争	将軍継嗣問題を通して、井伊直弼ら幕府守旧派が維持しようとした政治路線を理解する。 【知】 観念的な尊王攘夷論から現実的な武力倒幕路線への変化の意味を理解する。 【知】 大政奉還から王政復古クーデターに至る政治情勢を、場面場面での推理を働かせながら理解する。 【関】	南紀派と一橋派の違いについて発表させる。 薩摩・長州の尊王攘夷派がなぜ現実的な路線へ転換できたかを理解させる。 将軍慶喜と薩長派の主導権争いの意味を、場面を区切った発問と質問紙による解答で追究する。
3 明治維新と革新政策			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
第3時間目	政治体制の中央集権化（版籍奉還・廃藩置県） 身分制の廃止と「国民」の創出（徴兵制と秩禄処分）	幕藩体制の本質＝分権的支配体制が西洋列強の進出に対抗するために不都合であること、中央集権的支配体制の構築が不可欠であることを理解する。 【知】 諸制度の改革の中でどの階級の人々に負担がかかっていったかを考察し、明治新政府とは何かを多面的に理解する。 【思】	意見発表 プリント記入提出
第4時間目	経済制度の改革 文明開化	地租改正について多面的に考察し、戦後の農地改革が行われなければならなかったことと結びつけてその意味を考える。 【思】 文明開化の諸相について幅広く理解する。 【技】	質問紙記入提出 意見発表
4 対外関係の変革と内乱の終結			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
第5時間目	岩倉使節団の派遣と日朝修好条規の締結 氏族の不満と西南戦争	岩倉使節団派遣（その後の条約改正）・日朝修好条規締結（その後の大陸進出）における明治政府の外交の二面性の意味を考察し、その状況を理解する。 【知】 西南戦争を考察し、武士階級にとって明治維新は何であったか理解する。 【思】	なぜ二面性をもつのか理由を意見発表 プリント提出

日本史 A

学習指導案例

教科(科目)	地理歴史科 日本史 A	単元名	開国と維新
本時主題	東アジアの国際環境の変化と開国 (1 時間目 / 5 時間)		
本時の目標	<p>ミズーリ艦上の「二つの国旗」の逸話から、近代史におけるアメリカに対する 2 度の敗北 (開国・不平等条約締結とポツダム宣言受諾) を理解し、近代史の大きな構造の理解を通して、歴史そのものへの関心・意欲高め、積極的な態度をもつ。 【関】</p> <p>「炎上する清国帆船」から、アヘン戦争における清国の敗北の意味、この時代における、ヨーロッパによる日本を含めた東アジア全体の「植民地化の危機」の状況を読みとる。 【技】</p> <p>ペリーの来航と不平等条約の締結が、日本にとっての「植民地化の危機への対応」の始まりであることを「黒船に兵糧を運ぶ力士」の絵等についての思考を通して理解する。 【思】</p> <p>ペリー来航 = 外圧が倒幕にいたる大きな要因であることを理解し、倒幕への過程を推察する。 【思】</p>		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
<p>・太平洋戦争直後の降伏調印式から近代史の構造を考え、理解させる。</p> <p>10 分 (経過時間)</p>	<p>日本とアメリカとの関係の重要性の理解 太平洋戦争の敗北と日米関係の理解</p> <p>Question 1 降伏調印式のミズーリ艦上に飾られた 2 枚のアメリカ国旗とは何か。その意味は。</p> <p>・国旗 1 は太平洋戦争開戦時のホワイトハウスの国旗 ・国旗 2 は和親条約締結時のペリー乗船軍艦の国旗</p>  <p>アメリカにとってはいわば「2 度目の勝利」</p>	<p>Q 1... 国旗を見せながら、現代アメリカ国旗との違い等に注目させて興味関心を引きつつ、説明。正解を誘導。 【関】</p> <p>評価方法 発問、挙手、発表 国旗 2 については、この場に飾られた理由を考える。答えから、近代史の大きな構造 (対欧米外交、一流国の仲間入り) などに理解を進める。</p>	
<p>・東アジア地域におけるアヘン戦争の敗北の意味を考え、理解させる。</p> <p>20 分</p>	<p>アヘン戦争の概要の理解</p> <p>Question 2 広州湾で「炎上する清国帆船」の絵から理解できることは何か。</p> <p>・欧米列強による東アジア植民地化の危機を、絵から読み取り表現する。 ・清国敗北に関する幕府の対応を理解 (天保の改革の挫折、保守派の抵抗による海防策の遅延)</p>	<p>Q 2 については、プリントに自分の考えを記入させ、意見発表させる。机間指導により確認。 【技】</p> <p>評価方法 プリントの事後提出で確認</p>	
<p>・ペリー来航の状況とその後の和親条約・通商条約の内容について、その意味を考え、理解させる。</p> <p>35 分</p>	<p>アメリカの使節が来航した状況を理解 和親条約 (片務的最恵国待遇) 通商条約 (関税協定制・領事裁判権の許容) の不平等性を説明</p> <p>Question 3 「黒船に兵糧を運ぶ力士」の絵は何を意味するか。</p> <p>・「ペリーの軍事力を背景とした強硬な要求」に対して屈服した屈辱感への裏返しとして、兵糧を運ぶ力士という設定がなされたことを理解。江戸幕府の対応如何によっては、日本植民地化の危機が存在したことを理解する。</p>	<p>不平等条項については、発問により理解度を確認しながら徹底する。 Q 3 については、質問紙への記入回収により、評価。意見発表により理解を徹底。 【思】</p> <p>評価方法 質問紙記入</p>	
<p>・ペリー来航、開国の影響を理解させる。</p> <p>45 分</p>	<p>開国の影響から次の 2 点から理解し、倒幕・明治維新への流れを理解する。</p> <p>・幕府独裁の政治体制の動揺 (朝廷の介入) ・貿易の開始が社会生活に与えた影響 社会不安</p>	<p>経済・政治のポイントを確認する。</p>	

日本史 A

<p>・ペリー来航、開国がその後どのような展開を見せるか考える。</p> <p>50分</p>	<p>Question 4 なぜ江戸幕府は倒されるのか（倒れるのか）本時の学習から考えなさい。</p> <p>・本時の学習内容から、倒幕の要因を推察。次時への問題提起。</p>	<p>本時の学習内容の確認と次時以降の問題提起を行う。</p> <p>評価方法 【思】 プリント記入、意見発表</p>
---	--	---

ちょっと考えよう3

2年__組__番 氏名 _____

右の絵は、ペリー来航時に黒船に食糧（米俵）を運ぶ力士の姿です。

江戸幕府が、力士に食糧を運ばせた意図は何でしょう。



出典は、小西四郎著『日本の歴史19 開国と攘夷』（中公文庫1974年 P54より）

自己評価シート

2年__組__番 氏名 _____

序章の学習を振り返り、～ について自分の取り組み等を自己評価してください。

以下の項目について 方法 3（よい）～ 1（悪い）の数字に を付けなさい。

- ・「理解できたか」については、自分がその項目をこの時点で簡単に説明ができるという点から判断してください。
- ・「興味・関心」をもてたかについては、それ以前から持っていた場合も、授業を通して持つことができた場合もどちらも当てはまります。
- ・「考えることができた」、「作業ができた」については、授業のその時点でどうだったかを思い出して記入してください。

注意 この自己評価は各自の成績の評価の資料にもなりますので、正直に記入してください。

幕藩体制とは何かを理解できたか	1・2・3
江戸時代の身分制度について考え方と現代の問題とのつながりを理解できたか	1・2・3
「忠臣蔵」について、考察することができたか	1・2・3
鎖国体制はなぜ崩れていくのか世界の情勢が理解できたか	1・2・3
列強の接近に対する幕府の対応の限界について考察することができたか	1・2・3
配布したプリントはよく理解できたか	1・2・3
全体的に授業の説明はよく理解できたか	1・2・3

上の～ のうち、3（よい）または1（悪い）に を付けたものについては、特に説明があれば、以下に書いてください。

その他にこれまでの授業を振り返って印象に残っていることや、特に考えたことを自由に書いてください。